

各地の取り組み 兵庫県 神戸市東灘区

「そんなことが大事だとだれも教えてくれなかった」

東灘区保健福祉部医務担当部長 小児科医師 吉岡 伸子

育児のエッセンスが欠けているのでは

私は3月末まで、神戸市の東灘区保健福祉部で医師として、乳幼児健診を中心とした母子保健事業などに携わってきました。

乳幼児健診や新生児訪問指導の場面では、「テキストどおりにいかない」と育児に悩み自信を無くしている母親を多く見かけます。勤務先の仕事などで成果を上げてきたので、子育てもうまくやれると思っていたし、まわりもそう期待するけれど、現実はいかにいかないということがあるようです。平成24年2月には東灘区内で母親が生後5か月の乳児を絞殺するという事件が発生。その後の神戸市児童虐待死亡等事例検証委員会の検討で、母親は産後うつの可能性が推測されました。

神戸市では、生後5～6か月の乳児の第1子を持つ母親を対象にして、子育ての仲間づくりを促進し、子どもとの遊びと事故予防、離乳食、虫歯予防、本の読み聞かせなどを学習する「すくすく赤ちゃんセミナー」という全1回のプログラムを実施しています。子育て支援として一定の成果は出ていると考えています。

しかし、学習内容は育児のエッセンスというべきものが欠けているように私には思われ、上記のようなお母さん達に合う内容へのリニューアルが必要と考えていたところ、KKIのBPプログラム(親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!”)が発表され、どんなプログラムか知るためにさっそくBPファシリテーター養成講座を受講しました。受講して、BPプログラムこそ私の探していたプログラムだと思いました。しかし、4回シリーズというハードルは高い、私がファシリテーターをすることはできない(以前、区でNP(Nobody's Perfect)のファシリテーターをしたことがあり本業をやりながらの実施は大変でした)、ただでさえ忙しい保健師さんにこれ以上お願いすることはできない、などとぐずぐずしていたのでした。

一挙に事業化実現

東灘区でBPプログラムを実施するきっかけは、一昨年、区の保健福祉部内で次年度の子育て支援事業の話をしていた時でした。「子育て支援といっているいろいろな事業が実施されているけれど、ほんとに子育て支援になっているのか」、「一向に子育てが楽になったという話も聞かないし子ども虐待が減らないのはなぜか」、「それは今の子育て支援事業には決定的に欠けているものがあるからではないか」、「子育てで大切なことは子どもが親から愛されているという実感を持てるように育てること、ということを親に伝えていないか

らだ」、「ではどんな事業をしたらいいのか」、「BPプログラムというのがある!」ということになりました。

そこで、一挙に「東灘区親子の絆づくりプロジェクト」として平成25年度からBPを実施することが決定しました。親が自信をもって子どもにあった育児ができるように、親の心が安定し子どもの心に基本的信頼が育まれるように「0歳時期の親子の絆づくり講座」を開始することにしました。

行政と地域の連携で計画

では、どのような事業を立ち上げ、進めようとしているのかを説明します。行政の事業ですが、実施は地域団体に委託することにしました。地域には、地域福祉センターで10年以上子育てひろばを運営し母親の相談に直接応えている、ファシリテーターとしての資質を有している人材(主任児童委員)がいます。また、その方々も長年ひろばを運営している中で、早期教育に関する情報交換で盛り上がる母親に、「0歳の時期は抱きしめて親子の信頼関係を作ることが何より大切」と伝えてはいるものの、より適切な支援とはどういうことかを学び、地域で伝えていきたいという気持ちをお持ちでした。地区担当保健師がファシリテーターとなっても3年程度で異動していくことが多くファシリテーターが不在になり事業ができなくなります。地域に委託すると、継続して地域ぐるみで子育て世代を理解・支援してもらえると考えました。平成25年度はモデル実施し、結果を検証したうえで、区内にファシリテーターと実施箇所を増やしていくこととしました。

このように、平成25年度は順調にすべり出したわけですが、実施にあたり留意していることもいくつかお伝えしておきます。

区内にファシリテーターを短期集中で沢山養成し、場所も受講希望者に均等に機会があるよう開設していく予定ですが、地域に理解いただき意向をききとり調整していく必要があります。また活動地区内に複数のファシリテーターを置き、お互いに相談し合えるようにしており、地区担当保健師等が地域のファシリテーターをサポートする体制をとっています。しかし主任児童委員は多忙が必要です。また、ファシリテーターを担うには技術が必要で、報告書を作成する仕事もあり、精神的にきついと言われていました。

また予算についても初年度の予算は確保できたものの、今後、継続的に予算が約束されているわけではありません。



B P 普及 の た め に

参加者は意欲的・積極的

実施結果ですが、平成25年度は主任児童委員と保健師がファシリテーター養成講座を受講した後、11月と1月に1か所で2クール実施しました。寒い時期でしたが、11月13人/回、1月19人/回の母親の参加がありました。参加者は意欲的・積極的でした。参加者アンケートでは、「以前は子どもとずっといると、追い込まれ感やイライラすることがあったが、みんな同じく頑張ったり、悩んだりしていると知り心が軽くなった」「大変なことも含めて子育てを楽しめるようになった」「1か月前の自分と今の自分は違うと感じる」「赤ちゃんのリズムに親が合わせるようにした」「心に少し余裕をもって赤ちゃんに接することができるようになった」「心の安定根を育てるために子どもの機嫌が良い時にも抱っこするようになった」と答えています。

よくできたプログラムだと実感

一方ファシリテーターをされた主任児童委員の方の感想は、以下のとおりです。

B Pは4回のセッションを通して、お母さん達は負担に感ずることなく、赤ちゃんの成長、赤ちゃんとの生活や、自身の心のバランス、パートナーや社会との関係などについて、書き出しお互いに話し合っ、徐々に学んでいけるようにプログラムされています。

プログラムを理解するための研修や、セッションを実施するための事前の打ち合わせ・準備などは必要でしたが、実施してみて、その目標の獲得に実によくできたプログラムだったと感じました。実施後のお母さん達へのアンケートでもそのような結果がでました。今回、ある程度のエリアを区切り、区役所と地域が協力しておこなったことで、地域の仲間づくり、地域とのつながり、気がかりな方へのその後の専門的支援などにおいて良い連携が結べたと思います。今後も、定期的を実施することで、お母さん達が子育てする自分に誇りを持ち、いきいきと子育てしていけるのを支援できるのでは、と感じました。

継続実施のためのアイデア

そして、行政保健師は、B Pプログラムの意義を十分に感じたようです。



また行政が「初めて子どもを持つ母親に対する定例の事業」としてB Pプログラムを実施するようになると、子ども虐待や不適切な養育を予防するためのポピュレーションアプローチとして大きな意義があります。しかし、保健師などの専門職

がB Pプログラムに直接関与するのは、担当業務の多様化（子ども虐待対応など）と人員は据え置きである状態などから困難だと思われます。そこで困難を乗り越えるための一つのアイディアとして私はこんなことを考えました。

- ・行政は地域の場所（区役所・地域福祉センター・児童館・地域会館などふだん子育て広場などを実施しているところ）を設定
 - ・B Pプログラムは行政が KKI に委託
ファシリテーター：最初はB Pパッケージ（KKIが養成した2人のファシリテーターからなる専門チーム：KKIより派遣 スーパーバイズつき なるべく安価で、しかし質は KKIの保証付き）
 - ・ある程度の実績ができれば、主任児童委員や児童館職員などが養成講座を受けてファシリテーターになりB PチームとともにB Pを実施
 - ・慣れてきたら主任児童委員や児童館職員のみで実施する
- というような段階を踏むことが必要ではないかと考えます。

原田先生（KKI代表）がおっしゃるように「B Pプログラムは出産されたすべてのお母さんに受けてほしい講座」だと私も思います。なんとかB Pを普及させる方策を考えていけないでしょうか？



お母さんのことばに応えることができたかな

最後に私事ですが、以前私は病院の小児科で心身症や不登校の子ども外来を担当していました。その外来で会う子どもたちの多くが「親から愛されている実感」に乏しいということに気づき、その子どもたちの母親にその話をすると、その母親もまたそのまた「親から愛された実感」が乏しいということに驚きました。摂食障害の子のお母さんからは、「子育てでそんなことが大事だとだれも教えてくれなかった」とも言われたのでした。そこで心身症の治療は大事だけれど、心身症の予防をすることがもっと大事だと痛感し、子育て支援をしたいと思い、乳幼児期から親子とかかわりを持つ保健所勤務に転ずることを決めました。ちょうどその頃、原田正文先生の「思春期に花開く子育て」という講演を聞く機会があり、転勤を決める大きな後押しになりました。

その後、いろいろの子育て支援事業に関わり、NPを実施したりもしました。そして現職として最後の年にB Pを実施でき、東灘区でB Pを広めていけるかなと思われ、ようやくあの摂食障害の子のお母さんのことばに少しは応えることができたかなと考えているところです。